

オリジナル紙芝居

【アンネ・フランクのお話】

R・Oさん



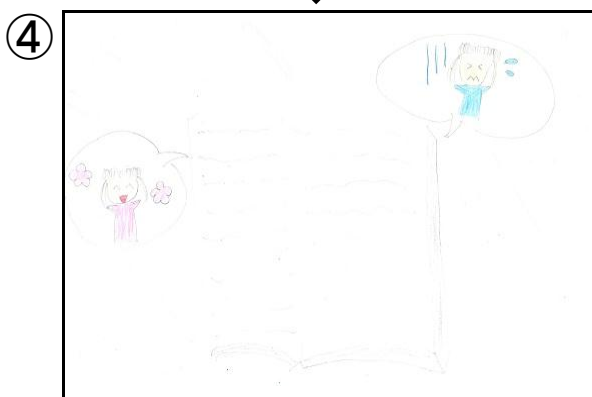
アンネ・フランクは、1929年6月12日に、ドイツのフランクフルト市で生まれました。アンネの父はユダヤ人で、ドイツの陸軍の中尉でした。



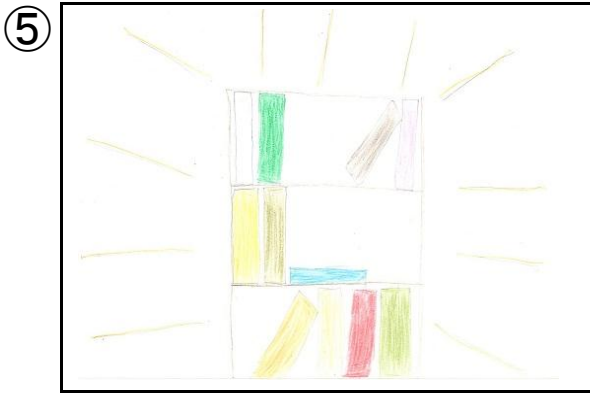
アンネが4才になったころ、ドイツでは「アドルフ＝ヒトラー」という人が注目されていました。ヒトラーが子どものころ、とてもまずしくお金をたびたび金ゆう業者から、かいしてもらっていました。



でも、その金ゆう業者はきびしいユダヤ人で、少しか貸してくれませんでした。そのせいでヒトラーはユダヤ人をうらむようになり、大人にたったヒトラーは、ユダヤ人迫害を始めました。



アンネたちはユダヤ人迫害をおそれて、たびたび引っ越しをしました。そのころからアンネは日記を書き始めました。中には、アンネの作った童話や、アンネの心の中にいる親友「キティ」への相談などが書かれていました。



ユダヤ人迫害はますますひどくなり、アンネたちはアムステルダムにある、かくれ家に住むことになりました。

かくれ家の1階が小麦粉倉庫になっていて、2階にある回転本だなを入るとアンネたちの部屋になっていました。



かくれ家に入って2年後、アンネたちがかくれ家にいることがばれてしまい、ユダヤ人強制収容所へ入れられました。

強制収容所での生活はきびしく、毎日10時間近く強制労働をやらされましたが、アンネはほかの人よりがんばってやっていました。



強制収容所では食べ物も少なく、1グループ分をまとめてわたされます。

そのため、多い少ないでケンカになることが多いのですが、アンネはできるだけ平等に分け、一番少ない物をアンネが食べていたので、ケンカがありませんでした。



2月になると、チフスという病気が流行り出して、アンネの姉のマルゴットが亡くなってしまうと、その3日後にアンネもチフスにかかり、亡くなってしまいました。

その後、アンネの日記が世界中で、知られ、アンネの記念像も建てられました。

